

## 国語分科会及び問題点整理小委員会における課題関連の意見

### <国語分科会における意見>

- 情報弱者である外国人のことを視野に入れて、日本語のネイティブの人たちが、どういう日本語を使ったらいいか（特に緊急時の情報発信）について検討できるといい。
- 漢字の使用範囲を決めるだけではなくて、常用漢字をどう使えば、どう活用すれば、分かりやすい文章になるか、分かりやすさという観点で踏み込んで審議できるといい。
- 正確に伝えたいことを相手に伝え、相手がまた、伝える人とほぼ同じ意味で受け取るという原点を踏まえる一方で、言葉は変化していくものであるということを踏まえて、何をどのようにまとめていけばいいのかを考えていきたい。
- 多文化社会の中で日本語で外国人に情報が分かる、あるいは日本語で伝わらない場合にどうするのかというところまで含めて、日本語の問題にしても、分かりやすい表現、分かりやすい専門用語、こうした点を、もっと深く議論していく必要がある。
- 分かりやすさという点では、聞いて分かる、読んで分かる、それと、学問的な正確さを期す場合と、行動決定のための判断のよりどころにする場合の分かりやすさは分けて考える必要がある。また、コミュニケーションスタイルの問題も取り上げてほしい。
- 220万の外国人たちが住んでいて、日本語で、情報を得て暮らしていることをもっと認識する必要がある。それから、日本語で発信していることを韓国語、中国語に訳すと、非常に強い表現になることもあるので、様々な角度から日本語を見ていく必要がある。
- 外国人が、どこから、どういう形で情報を得ているのかなど、今回の一連の出来事について実際の現場でどういうコミュニケーションの問題が起きたか、といった基本的な調査を国として綿密にやった上で次の方策を考えることが必要である。
- 日本に移入してくる多国籍、多文化、多言語の背景を持つ外国人も含めて、日本語のコミュニケーション、あるいは日本の国内における世界に向けてのコミュニケーションというものがどうあるべきなのかを総合的に考える機関が必要だと強く思っている。
- 今回の地震に対して、世界中の子供たちが日本のことを非常に心配して、メッセージを伝えてきているわけで、やはり日本語を勉強するということが、日本に対する関心、理解を深める。そのような観点から日本語教育を考えていくことも非常に重要である。
- 文字がコミュニケーションの原点であるという捉え方もある。それから、法令や公用文書の在り方というのは、一般から見ると分かりにくいので、そのノウハウが提供されれば一般の文書の在り方にも参考になる。その普及を考えていくことも課題となろう。

<問題点整理小委員会における意見>

- 現時点で比較的スムーズにすべり出した新常用漢字表に対して、今後、簡単に言うと賛否両論が出てくるだろうと思うので、それらを見極めて、問題に関する整理に微力を尽くしたい。
- 問題点はもう既に整理されていて、解決の指針を検討していくという点では、漢字もそうだし、音声、言葉が、情報弱者である外国人も含めて、伝わる日本語検討小委員会と言うか、伝わる日本語を考えていく会になるといいのではないかと。
- 公の場で自分の考えを子供たちが表現できる力をどうやって持たせていくのかということが、今の社会、今後の社会にとって大きな問題である。また、常用漢字表のケアを考えていくこと、作文における表現力の乏しさをどう解決するかも大きな課題である。
- 言葉には、読み書きにしる、話す聞くにしる、コミュニケーションの手段という側面が必ずあるので、これだけは絶対に担保しておかなければならない機能である。一方、変化していくものでもあるので、そのバランスをどう取っていくかが大事である。
- 理念的なものより、具体的な成果物を示すことを考えたい。例えば常用漢字表の活用法みたいなことも考えられるし、公用文作成要領を各分野で使える、分かりやすい文章の書き方の「たたき台のたたき台」みたいなものとして改定することも考えられよう。
- 手書き文字の指針について出せるかどうか、国語の授業はどういうふうに行われなければいけないか、指針を出すのは難しいが、言葉の問題と家庭教育の問題についてどう考えるかなどの課題がある。平成5年の報告の柱立てに沿って整理していけばいい。
- 常用漢字表の定期的な見直しをどこで、どのような形で扱っていくのか。情報弱者の問題はこれまでもあったことであり、ここでの課題である。言葉はコミュニケーションの道具だけでなく、日本人の自覚という問題とも関係する。その観点から検討したい。
- 具体的な指針になるような形が望ましい。日本語のコミュニケーションスタイルの中で伝わる日本語をどう教育したり、どう磨いていくか。それから、作文能力と話し言葉の能力、説明、説得の能力をどう育てていくかについても取り上げてほしい。
- 言語の環境の変化の中で、我々の言語能力のどこが発達し、どこが衰えたのか、そこを見極めた上で、具体的な問題を考えていく必要がある。また、常用漢字表を見直したところで、一度本格的な日本語の読み書き調査をやることは非常に大きな意味がある。